



<日米主要証券会社の株式市場予想>

<日経平均株価の予想>		23年12月26日 / 3万30305円85銭
大和証券	3万9600円	(24年度末)
三菱UFJ・モルガン・スタンレー証券	3万9000円	(24年末)
SMBC日興証券	3万8500円	(24年末)
野村証券	3万8000円	(24年末)
みずほ証券	3万6500円	(24年度末)
<米国S&P500の予想>		23年12月26日 / 4774.75
ゴールド・サックスマン	5100	(24年末)
シティーグループ	5100	(24年末)
バンク・オブ・アメリカ	5100	(24年末)
パークレイズ	4800	(24年末)
モルガン・スタンレー	4500	(24年末)
JPモルガン・チェース	4200	(24年末)

<勢いを取り戻した NY ダウは史上最高値更新を続け、日経平均株価もいずれ追随へ>

・米国株市場が23年11月以降、勢いを取り戻して再び急上昇を続けた。12月13日に史上最高値だった21年1月4日3万6799ドルを1年8カ月ぶりに上回り、14、15日と3日連続で史上最高値を更新、さらに19、26日と12月に入り5度目の史上最高値更新となり、クリスマス休暇明けの26日の終値は3万74545ドルと直近の安値である10月27日3万2418ドルから1カ月で15.8%もの上昇を記録した。12月12、13日に開催された米FOMCにおいて3会合連続で政策金利を5.25~5.50%に据え置き、しかも24年に3度の利下げを行うことを示唆した。株式市場が待望していた「米利上げ終了・利下げへの転換」への確信が高まったことによる“GOサイン”である。

・一方、日経平均株価は逆に、為替が一気に円高に傾いたことで頭打ちとなり、NYダウと日経平均株価の差が広がる展開となった。しかし、予想PERの推移を見ての通り、低下傾向が続いた。日経平均株価がほぼ横ばい推移となっている一方で予想PERが下落しているということは、企業業績の上方修正が続いているということで、日経平均株価も早晚、企業業績の好調を反映して再び上昇を続ける展開となろう。ちなみに26日時点の日経225ベースの予想EPSは2283円まで上昇している。大手証券が発表している24年度の業績見通しの平均は7%増益で、これを前提にすれば、24年度の日経225ベースの予想EPSは「2443円」と予想、予想PERが16倍まで上昇すれば日経平均株価は「3万9088円」と89年末の史上最高値3万8915円を上回ることになる。

<大手証券の日経平均株価予想は総じて強気、注目は半導体関連とPBR1倍割れ銘柄>

・大手証券の24年末・24年度末の日経平均株価の予想、及び米国証券大手の米国S&P500の予想が出揃った。大和証券と三菱UFJ・モルガン・スタンレー証券は史上最高値を上回ると予想、他の3社もほぼ近い水準まで上昇すると予想している。米国S&P500に関しては、ゴールド・サックスマン、シティーグループ、バンク・オブ・アメリカの3社が5100まで上昇すると予想。モルガン・スタンレーとJPモルガン・チェースは景気後退の懸念やその他のリスク要因で慎重にみている。日本株市場に関しては、企業業績の好調と24年春の大幅な賃上げ継続を背景に日本経済が本格的にデフレ脱却へと進むことで、日本企業への注目度が高まるとしている、米国株市場に関しては、米国企業の業績も24年半ば以降に本格回復に転じることと、米FRBが数度の利下げを行うことが米国株市場を下支することになると言えよう。

・いずれにしても、24年は日本株に対して強気なスタンスで臨みたい。但し、日銀が金融政策を転換することでの株価下落、海外要因によるショック安など、波乱展開は充分にあり得る。しかし、最終的には再び株価上昇に回帰することになることから、慌てることなく冷静に対処したい。むしろ、株価下落局面は大きな投資のチャンスだと捉えるべきだろう。最も注目したいのは、急激な回復が予想される「半導体関連」、そして引き続き「PBR1倍割れ」で好業績かつ積極的な戦略を打ち出している銘柄群と考える。